

第1回 白糸小学校のこどもたちの未来を考える協議会 議事録

○日時 令和8年2月18日(水) 午後7時から8時40分まで

○会場 白糸会館

○出席

【委員】

遠藤 寛	会 長	田村 勇太	副会長	安藤 沙弥	委 員
石川 裕美	委 員	小長谷 拓司	委 員	伊藤 竜太	委 員
小池 あかね	委 員	馬飼野 公洋	委 員	古屋 博正	委 員
大槻 吉一	委 員	佐藤 清隆	委 員	渡邊 寛	委 員
齋木 隆久	委 員	遠藤 佳之	委 員	渡辺 佳正	委 員
渡邊 里乃	委 員				

【事務局】

望月 俊伸	教育長	石川 佳和	教育部長
佐野 浩市	教育総務課長	斎藤 治	学校教育課長
佐野 達也	学校教育課参事	植松 弘美	教育総務課主幹兼総務係長
土橋 彦六	教育総務課総務係	中村 日出和	教育総務課総務係

○次第

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 自己紹介
- 4 会長及び副会長選出
- 5 議事
 - (1) こどもたちの未来を考える協議会の進め方
 - (2) 白糸小学校の再編に関する教育委員会からの提案
- 6 次回の予定
- 7 閉会

○会議内容

1 閉会

2 教育長挨拶

(教育長)

白糸小学校のこどもたちの未来を考える協議会の開催にあたり、教育委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。

はじめに、本日御出席の皆様方におかれましては、御多用のところ本協議会の委員をお引き受けくださいます。誠にありがとうございます。また、日頃から白糸地区に住むこどもたちを温かく見守り、支えてくださっている保護者の皆様、地域住民の皆様に、この場を借りまして心より感謝申し上げます。

さて、白糸小学校は、世界文化遺産富士山の構成資産である白糸ノ滝を抱える環境の中で、「笑顔いっぱい輝く子」を育てるために、地域とともに歩み、これまで多くの卒業生を送り出してこられました。これまで先人の皆様がこの学校に寄せる愛着と、これまで注いでこられた情熱は、私たち教育委員会としても十分に承知をしているところでございます。

しかしながら、現在、少子化の進行により、これは決して富士宮だけの問題ではなくて、全国的に少子化が大きな問題になっているところですが、本市全体においても児童生徒数の減少が進んでいるところです。これからの社会の担い手として、予測困難な時代をこどもたちが自信を持って力強く歩んでいくために、学校ではこどもたちが集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になってきます。そのためには、一定の規模の人数を確保していくこと、つまり学校の統合も避けては通れない課題だと私どもは認識しております。

本協議会では、昨年及び今年に開催した意見交換会の状況や今後の児童数の推移などを踏まえて、未来を見据えた白糸小学校の再編の方向性について議論していただきたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、白糸地区のこどもたちにとってより良い教育環境がどうあるべきかを念頭に、議論していただくことをお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 自己紹介

委員及び事務局の出席者が自己紹介を行った。

4 会長及び副会長選出

選出について、事務局案を提示し、これが承認された。

(教育部長)

協議会の会長につきましては、この白糸地区で最も区長経験の長い狩宿区長の遠藤委員、副会長につきましては、保護者の代表である田村委員に御就任いただきたいと考えております。(委員の拍手をもって承認された。)

(教育総務課長)

ここで会長と副会長に一言ずつご挨拶をいただきたいと思います。

(会長)

たまたま早く、一昨年から区長になったわけですが、他のメンバーからすると、約1年長くやっているということで仰せつかりました。その中で、せっかくこういう教育委員会の方々がいる場なので、今日も何か一言、自分たちの思いをこの場で語っていただいて、これからの地域の学校に対して、意見を皆さんから一言いただければなど。これから、会合が何度かあるかと思いますが、そのときに一言も言わないで帰ることのないように、自分の思いをここで話し発言してやっていただければいいのかなと思います。和気あいあいとした中で、堅苦しくならずやっていければと思っていますので、よろしく願いいたします。

(副会長)

副会長を務めさせていただきます。令和8年度のPTA会長をやらさせていただきます。今、会長がおっしゃったように、せっかく皆さん集まっていたので、本当に意見を出し合わないとお集まりしている意味もあまりないのかなと思うので、ぜひ意見を活発に出し合いましょう。お願いします。

5 議事

(1) こどもたちの未来を考える協議会の進め方

本協議会の概要について、下記のとおり説明を行った。

- ・目的：再編対象校の地域住民、児童の保護者及び未就学児の保護者等を委員として、こどもたちの未来を第一に考え、地域主導で学校再編の方向性を協議する場である。
- ・協議内容：①学校再編に関する方向性、②その他学校再編に関し必要な事項
- ・開催回数、期間：回数は3～5回程度、期間は半年～1年程度※ただし、協議会の進捗状況によってはこの限りではない。
- ・進捗状況の周知：協議会ごとの内容をまとめた「こども協議会だより」を作成、市のHPへの掲載や地区への回覧を実施する。
- ・協議の終了：方向性が決定したら、意見書を作成し、意見書の内容が決定した段階で協議を終了する。また、協議会で結論が出ずに長引く場合は、協議を再開するめどを決定した上で、一旦協議を終了する。
- ・意見書の提出：決定した意見書は、会長・副会長が教育長に提出する。
- ・協議会終了後の流れ（統合する場合）
 - ①代表者会議・・・統合を行う学校の代表者同士で統合時期等を決定する。

②統合準備委員会・・・①に教職員を加え、学校の統合に関する具体的な事項を決定する。

・会議の公開：会議は原則公開とする。

(会長)

ただいま事務局から説明がありましたが、ご質問等あればお願いいたします。

(委員)

協議会終了後の流れで、代表者会議と統合準備委員会とありますが、これは並行してやるのか、それとも代表者会議が終わった後に、統合準備委員会をやるのか。そこだけお願いします。

(教育総務課総務係長)

代表者会議が終了後に、統合準備委員会に移ると考えております。

(委員)

代表者会議のところで、学校統合を行うこの協議会から代表者をそれぞれ出すと思うのですが、これは全部で何をどのくらいまで何名なのかをちょっと教えてもらえばと思います。

(教育総務課総務係長)

人数的には特に何人ということは考えていないのですが、統合する学校のそれぞれ代表の地域の方だったり、保護者の代表だったりというところが入っていただいて、会議を設けたいと考えております。

(委員)

学校の数はいくつですか。

(教育総務課総務係長)

いくつかという、この後資料の方で提案をさせていただくのですが、西富士中学校区での統合を提案させていただきますので、その場合ですと、上井出、白糸、それから今、小規模特認校をやっておりますが、人穴小学校というところで、3校という提案になるかと思えます。

(会長)

他にありますか。それではないようでしたら、このような形で協議会を進めてまいります。

(2) 白糸小学校の再編に関する教育委員会からの提案

現状と課題（学校再編の必要性）及び学校再編をすることによって得られるメリットを説明したのち、西富士中学校区の小学校を1校に集約する案を提案した。

(会長)

何か質問、意見ございますでしょうか。

(委員)

西富士中学校区に一つに集約するという事自体は、実は私達が小学校から中学校に

なってから上井出中と白糸中が一緒になって西富士中ができたという経緯になるので、それをするのは全く私自身は抵抗ない。むしろその方が今の環境では望ましいとは思っております。ただ問題というか、心配なのは、それをしてもまた数年後にまたどうかということに起こり得ないのかということでしょうか。

(委員)

説明がよくわからなかったのですが、ただいまおっしゃったように、学校再編によって得られる効果ということで、令和8年、9年、10年、11年、ここまではいいんですが、その後はどうなっちゃうのかなとは思っています。やはり、上井出、人穴、白糸というのは、西富士中学校区ということで、我々も西富士中で卒業して、卒業生とは今でも親しくしている人はいますので、そういった意味では小学校から近くに、小規模で地域が狭いですが、いいことなんじゃないかなと思いました。統合の課題というか、先生の数とかがどうなっちゃうのかなと。今の教育現場が、生徒に対して、先生の数が足りているかどうかとか、いろいろとその割り振りも問題になってくると思いますので、統合というのは私は賛成ですけど、早急なというか、方向性としては統合でいいんじゃないかなと思います。やっぱり複式学級というのは、本当に避けてもらいたいなと思っています。

(委員)

意見交換会に出席ができていなくて、今資料を見ながら、こういった御意見が出てたのかななんて思いながら見てましたが、まず3校統合という方向性で、いいのかなという部分と、今この小規模の学校で、この間一番下の子の入学説明会に行かせていただいて、そのときに、校長先生から、小規模だからこそういうメリットがありますと、先日聞いたばかりなんです。それですごく先生が目が行き届くというところと、今、縦割り活動とかを結構やっていただいている、上級生や下級生とコミュニケーションを取るという場がすごく設けられているような気がして、そういった中で小規模の良さというのを、最近聞いたばかりなので今回3校が一緒になったとしても、すごく多い人数にはなりません、こういったことを考えていかなければいけないのかなというのが正直な考えです。

(会長)

確かに、小学校の児童数で言うと、1人の先生が、5人とか10人とかを相手にしているわけで、昔30人、40人程度を見るよりは、細かいところまで目は行き届くのかなという気がしますけど、逆に言うと、クラス替えがないということは、何かあったときに、ずっとそのまま、卒業するまで変わらないというふうに考えるわけですね。そうすると転校するしかなくなってしまうので、そうなってしまうと、またいろいろこの地域の過疎の問題についても拍車がかかっていきかねないかなとも感じています。また、人穴小学校は小規模特認校という別の活動を今やっているの、なかなかスタートしたときに一緒にすぐこうという話にはなっていないかもしれない。その中で、上井出と白糸、この2校をとというのは多分教育委員会の方々の今の考えかもしれません。その中で新たに一つの学校を作ってしまうのか。今ある校舎そのものを流用しながら、白糸小学校に集めるのか、上井出小学校に集めるのか。またまた西富士中学校の中に、空き教室

があるので、小中一貫としてやるのか、そういう方向がいろいろこれから課題として出てくるんだろうと思います。そうなったときに、逆に言うと、保育園が各地域にありますけど、そこがやっぱり少数になってきているのだろうと。このデータの中ではわかりませんが、そこら辺も合わせると、どっかにまとめて、保育園から中学校までの一体化したものをという考え方もある。そうなったときに、例えば西富士中学校に、保育園から中学校までの一貫校としてやっていこうと考えるのであれば、あまり変わらない状況だろうとおもいます。これが上井出小学校の方へ行きましようという、白糸の端の方から通うとなると、かなり距離が遠くなる。白糸から上井出に行くときに、人通りの少ないところを通らなければならないというところに住んでいらっしゃる方もいるのかなと。そういったところの通学に対するいろいろな不安を親御さんとしては持つのではないかなと思います。

(委員)

お願いしたいのですが、今回西富士学校区ということで、白糸、上井出、人穴小学校という話が出ていますが、今この協議会を開くのは、白糸と上井出でしょうか。

(教育総務課長)

現状はそうです。

(委員)

できたら、会議は公開ということですから、こちらの協議会の部分の話がオープンになっているのと同時に、上井出の方の情報をこの席で提供していただいて、紙面での情報交換ということになるでしょうけど、やはりそのような形で上手く進めていただければと思います。それから、今日は保護者の皆さんが来ていますから、一つお願いしたいのは、やっぱり私たちが大人目線で見えていますけど、やはり子どもたちが将来、この地域から社会に出ていくまでのスパンで見ているかもしれないんですけど、子どもに良い機会を与えるような環境を作っていくということを大事にしていかなければならないと思います。ですから、大人目線は大事ですけど、子ども目線で夢と希望を持った社会の中に、これからそのような中で成長していくんだというきっかけが作れるような環境が、この統合問題の中でもそういう芽を潰さないような考え方ができればなということでお願います。

(委員)

児童数の合計に男女比が書いてなくてわからないんですけど、実際、来年度の1年生に関しては、女の子が1人に対して、男の子が3人とか、すごく男女比にもばらつきが出てきているわけです。お母さん同士の話でよく出るのは、やっぱり女の子1人があぶれてしまう。逃げ場がない子がいるという話を聞くので、そういうところを考えると、やっぱり総合した方が、そういう逃げ場が作れるのかなとは思いますが。この推移を見ていくと、やっぱりスピード感のある対応が大事になってくるんじゃないかなというのは、ひしひしと感じています。

(委員)

先ほど市の方の説明を聞いて思ったのは、会長もおっしゃっていましたが、人穴小のことが気になって、特認校だからこそよそから行かせる保護者の方とかもいるだろうし、

地域一体で頑張っていると思うので、本当にそこが統合されるのかという疑問と、今までの懇談会資料にもあるんですが、やっぱり3校が統合しても、この先の少子化によってまたどのみち人数が少なくなって、また統合となるのか、毎回懇談会でその辺の意見が出ていると思うので、西富士中学校区だけでなく、この先は何か考えていらっしゃるのか聞いてみたいです。

(教育総務課長)

それではまず、その先の話をしていただきますけれども、今、市の方でこのような協議会を進めているのが基本方針に基づいて、複式解消もしくは複式になり得る学校を複式にさせないようというところで取り組んで、このような協議会をやっているところでございます。そのような方針しかないものですから、来年度、学校の再編に向けた計画を策定する予定でございます。その中で、もっと先を見据えた計画案が示せるのかなというように考えています。

先ほど人穴小学校の特認校という話がありましたが、今、来年度の4月からに向けて準備していて、数名の子が通うような状況になっております。ただ、それがいろいろなどこから来て、複式が解消されるようであれば、それは人穴小で単独でやっていただいても構わないのですけれども、それが結果として、小規模特認校制度を使ったけれども、人が来なかったということになれば、結果としてこの白糸地区と上井出地区の統合と同じ時期になるかはわかりませんが、小規模特認校次第では最終的には西富士中学校区の一つの統合になろうかと考えています。

(教育長)

先ほどスピード感をもってというお話も出てくる中で、先ほどの提案で西富士中学校区でということでは、もうここの協議会の中だけの話で進んでいけば、年数はわかりませんが、何年後かということを考えていけるのが、まだ出生数とかその辺もこの先のことでまだわからない部分がありますが、それを計画の中である程度長期的なことを見越したときに、もう少し大きなエリアで、例えば井之頭とか、北山、上野とかも含めてとなると、かなり時間がかかります。ですので、まずはこの白糸小のこどもたちのより良い環境を作るのに、じゃあ10年、15年先まで待つて広いエリアで一つにしていきたいと思いますというのは、私としてはそこまで先送りしたくないなという思いがあるものですから、その後、計画の中でどのようにするかというのは、こどもの数にもよりけりですけども、まずは、今のこどもたちにできるだけ早く良い環境を整えられたらなということで、提案としては西富士中学校区でということを出させていただいております。

(会長)

そこで一つお願いがあるのですが、今、白糸小と上井出小の児童生徒数の推移は、今いただいた資料の中である程度言えるわけですけど、他の地域の推移がどうなっていくのかというのがやっぱりちょっと気になるので、今、教育長から大きい範囲をしようとすると、それだけ年数がいろいろなところで話し合いを重ねなければいけないので、年数がかかってしまうというようなお話もございましたけど、私達としてもそんな長くか

かることを希望しているわけではないのですが、先ほどの意見にもありましたが、またもうこれで5年後には、上井出と白糸が一緒になっても30人程度の児童数になってしまうという数字が出ていますよね。そうなったときにまたもう1回やり直しましょうという話が出てくるわけですね。

(教育長)

今のところは、先ほど教育総務課長が言いましたけれども、複式学級は避けようというところでスタートしている部分があるので、理想は会長おっしゃったように、クラス替えができる2学級以上というのが、政府の方針でもあります。国からの適正規模というところに該当してくるわけですが、先ほど、男女比の話もありましたけれども、本当はクラス替えができたとか単級ではなくて、2学級以上でクラス替えもできたというところで、より協働的な学びを実現しやすいかなというのがあります。一クラスに数人というよりも、30人となれば、またそこでの活動というのは広がっていきますし、クラス替えができないとしても、例えば友達同士で活動するようなときには、こちらの子とちょっとうまくいかななくても、あの子と仲良くしてというところで、逃げ場という先ほど表現がありましたけど、そういうところも保障されるとよいなと思っているところです。そこを本当にリアルに富士宮市でやっていくとなると、今、数値的なものはありませんが、じゃあどれだけの学校を一緒にすればというと、もしかしたら本当に富士宮市の小学校が今、21校ですけど、それが半分くらいになっていくということもあります。現実的にその数に集約していくというのは時間的なこととかを考えたときに、今の時点でそういうふうなそこを目指してやっていきますというのは、現状ではちょっとお話をする段階では今のところありません。

(会長)

生徒数が少ないと、どうしても競争心というのが生まれにくくなるのかなと。我々の西富士中学校時代は、学年で100人ずつくらいいました。そうすると、あいつには負けないとか、何かして、1点でもテストの点が良くなるにはどうしようかなって一生懸命勉強したりあるんでしょうけど、10人程度の人数の中でいくと、またこの点数だったかなって思ってしまう。かけっこをやっても、あの子は足が速いから適当に流せばいいやというような、競争心がなくなってしまうのが怖い。小さい学校から西富士中に行ったにしても、あまり大規模ではないので、高校へ進学したときに、出身者が5人しか行かないよ、片や20人とかいるよという話になります。どうしても少数派閥になってしまうので、とりあえず6クラスにわかれてしまうと、何人が元中学校の人がいるかなと考えると、ちょっと寂しいかなと思います。そんなふうなことを思うと、ある程度の規模になった方が好ましいのかなと私は感じました。それは今、教育長がおっしゃられるように、時間のかかる話ですし、それだけ大きい器を用意するにはお金もかかる話もありますので、上井出と白糸と一緒にいただいて、今より規模を大きくして、そこら辺の問題を少しでも解消に繋げたいという考え方で、私どもは受け取っておけばよろしいでしょうか。

(教育長)

そうですね。

(会長)

10年か20年か先にはまた統合する話が出てくるかもしれませんが、今の状況では上井出と白糸ということで…

(教育長)

提案としてはそのように考えています。

(委員)

人数が非常に少ないんですけど、12年には6年生が14人と書いてあって、複式学級にならないという形だけではなくて、もう少し今から集めるような形をとっていかないと、結局こういう地域に暮らしていると、学力的に非常に不利になってくると思います。ですから、もう少し北山とか上野とかそういうのを合併して人数を増やしていくような考えが私にはあります。複式学級だけを解消という小さい問題ではなくて、もう少し広い目で見ても、地域の要するに学力レベルとかそういったものがだんだん低下していつてしまっていて、ついていけない子どもがたくさん出てくるなというふうには思いました。もう少し小さいことじゃなくて、もっとでかい規模で考えていかないと、5年後にまた考えてやり直すというのはちょっと無理だと思います。実際には、今からやっけていかないと、5年後のことを今考えていかないと、なかなか難しいと思います。子どもの教育ということを考えると、親としてはなかなかそこに通わせたいとは思わない。うちの地域の人が中学校に行く際に、下の方の学校に行っていました。そういうことも考えていただきたい。

(委員)

最初に、子ども目線で考えるべきだというお話があって、私もそれは本当に大切なことだなと思います。今、児童生徒にアンケートをとると、小規模校の子、複式学級の子、それから中規模、大規模校それぞれ子どもは今の環境に慣れると、そこがいいなというふうに思っているようです。だから、大人から見ると、クラス替えができる環境の方がいいじゃないかと思えても、子どもは必ずしもクラス替えができるそれが楽しみというところもあるのですが、私は上野、北山もまとめてというところまでは今の段階では考えなくてもいいのではないかなと私は思っています。

それで、学力の面で言うと、小規模校と、中規模校、大規模校で単純に学力という観点からしてそんなに私は差はないかなと思っているのですが、それぞれ特質があると思うので、それぞれの良さもあるだろうし、学力とかいろいろな子どもの学びの姿勢とかという面で比較すると、その点どうなんでしょうか。端的に言って、私は小規模校は小規模校の良さもあるし、どっちの方がいいかというそれぞれの良さがあると思うんです。どっちがいいというのは、必ずしも決められないことだと思うので、客観的な数字としても教育委員会で、その辺お話を聞ければなと思います。

(学校教育課長)

学力とか今、委員がお話してくださったとおり、学校による学力の差というのは、基本的にないとも思っています。大規模校だから、中規模校だから、小規模校だからという

ことが理由による差はありません。市内小学校 21 校、中学校は 13 個あるのですが、様々な規模の学校がありますが、全てどの学校も今いる教職員も子どもたちも一生懸命やっていますので、それぞれの学校が一番、どの学校も一番良い状態で教職員も学校活動を行っていますので、規模による学力の差というのは、基本的にはないと私も思っております。

(会長)

学力の差というのはそんなにないでしょうけども、スポーツや部活動、そこにおいては非常に差ができています。中学校の話ですが、ナンバースクールでさえ、例えば野球チームが構成できない。だから 3 校合わさってチームを作る。そうなれば、当然普段は各自の学校で、キャッチボールとかやるのでしょけれど、試合になると連携ができないとか、そういうチームプレーを、教育の中でもそういうことも必要なものだと思いますが、そういう意味で小規模校になってくると、今西富士中学校でも単独で活動できるのは一つか二つです。それしかないとなると、野球は僕がやらないよってことであれば、何もやらないという、部活動をしないという選択肢や部活動をやるなら他に行くという選択肢になってしまう。そういうことが逆に生徒数の減少に拍車をかけるような気がしているんですが、この辺はどうでしょうか。

(委員)

部活動については、これから地域単位で考えて、地域というのがどこまでの地域に含まれるのかというのはそれは議論があるんですけども、部活動のあり方が学校単位ではなくなってくる可能性が、国の方針としては、そんな方向に向かって動いています。指導者も顧問という形より、外部の指導員を入れて地域でやっていくという方向性はあるということです。我々の時代からすると、そんな話考えられないんですけど、部活動自体のあり方は今後大きく変わってくるんじゃないかなと感じています。今、議会の委員会でいろいろな規模の学校を見てきて、それぞれの良さというのは感じているんですが、教える先生にとってどのぐらいのニーズが先生にとっては一番良いんですかというのと、やっぱり目が届いて、なおかつ競争心も生まれて、個別の指導ができるという点というのと、その先生は 20 人規模ぐらいが一番いいなということはおっしゃっていました。私、白糸小に子どもが世話になったときも大体 20 人で、全校で 120 人ぐらい、非常にいい環境でした。クラス替えはなくても、中学に行くとクラス替えがありました。今は中学でもクラス替えはちょっと難しい状況になってくるかもしれませんが、参考として、20 人ぐらいが一番先生にとってはいいというお話は聞かせてもらいました。

(学校教育課長)

部活動による児童生徒数の影響ですが、現在も行っていますが、例えば西富士中学校を例に挙げると、男子は野球とバスケットボールで、女子はバスケットボールとソフトテニスということで、例えば今言った部活動以外に、入って活動したいという場合は、就学指定校変更という制度がありますので、例えば陸上をやりたいと思っている子が陸上がある学校、近くでいうと上野中であるとか、大富士中の方に行って、陸上部の活動をしたいという場合は、そういうことも中学に上がる時点で、申請をしていただければ、

通う学校を変更することができるような形で対応はできます。それによって西富士地区の子どもたちが西富士中以外の学校に行くと、西富士中の生徒が減ってしまうという現象はあると思います。また、先ほどの野球の話为例に挙げると、夏に3年生が引退をしてから、1年生の新しいチームで活動が始まっているのですが、野球を为例に挙げると市内で単独でチームを組んでいる学校は1校もありません。それぐらい、各学校、一番大きな富士根南中学校でさえ、単独でチームが組めないというのが現状です。

(委員)

中体連はやっていないのでしょうか。

(学校教育課長)

合同チームとして大会には出場しています。競技によってまた違いがありますが、合同チームで市内の地区大会から参加して、勝ち上がっていくと上位の大会に進んでいくというケースがあります。

(会長)

だいぶお時間が差し迫ってきましたので、とりあえず私の方からお願いがあるんですが、例えば前段で話しましたが、白糸小学校の校舎を使って、西富士中学区の小学校を統合する。もしくは、上井出小学校の校舎を使って統合する。そういったときのメリットデメリットっていろいろあるかと思うのですが、皆さん何かこういうことが心配だよとか、何かありますか。

(委員)

今、小学校2年生の子どもがいて、2年生が今14人で、下の子が年中でして、この資料見ると9人になっているんですけども、下の子の友達がたくさん多い中、他の園に通っているものですから、小学校に上がる時にちょっと少なくなってしまうことが懸念で、びっくりしてしまっていてどうなのかなと思いました。なんとかしていかなければいけないと思うんですけども、前回の意見交換会も参加できていない中、教育委員会の方から西富士中学校区を一つにしてというような提案があって、委員から言われたとおり、数年後また合併になるのではないかと。自分がいろいろなところを転々とする中、富士宮はあまり統廃合がなかったように思います。自分が伊豆半島に住んでいることがありまして、10年くらい前でしょうか、天城、中伊豆の方ですごい離れた小学校が一つの小学校に統合されました。こんな距離を子どもが歩いていくのか、それとも親が送っていくのかといった小学校が統合されて、また統合されていく。また先ほど意見もありましたけど、保育園も一緒にしていこうというのを進めているようです。

クラス替えができる規模の人数が学年で必要なのか、必要じゃないかというような話も聞いたりもするんですけども、大体人数でいうと35人ぐらいだと思うのですが、そのくらいですか。

(教育総務課長)

36人から二クラスになります。

(委員)

やはりこの地域だけでは、それがあべき姿とするのであれば、北山とか近くの小学

校も一緒にするべきではないかというのが一つです。もう一つは通いはどうなのかな、向こうから来てもらうと、すごい距離としては遠い。天城の話もしましたが、やはり遠いと思います。今そういった統廃合がなかった地域で考えると、すごく遠くてちょっと現実的ではないなど考えるのもあります。自分のこどもで考えると、本当に数年後に4人になってしまうという急場の話と、あるべき姿を考えると、今急場のぎで、一度この地域で統合して、あるべき姿として第2段階として、もっと大きい規模で考えるという二つの段階で考えるべきではないのかなと思います。第1段階で考えると、地域の方もまだ移りやすいといったメリットもありますし、ただと新たに小学校をつくるということも難しいなと考えていますので、どこかの小学校に集約するべきなのかなとも考えますが、他の地域の統合とかを見ますと、小学校中学校が一貫教育というのはちょっとした流行なのではないか、進めている地域が多いようですね。富士市もそういったことをやってきましたし、静岡県内でもいくつか同じ校舎で小学校中学校が一緒になったところも増えてきているようです。であれば、先ほど言ったように、白糸小学校、上井出小学校なんかではなくて、西富士小中学校の一貫教育としてやっていくのを考えるところですね。メリットとしては多々あります。小学生にしてみれば、中学校の校舎ですので、専門的な部屋もあるでしょう。理科室、音楽室が整理されているかと思います。保護者としてもメリットあると思うんです。例えば、中学校の行事、小学校の行事、同じ運動会として一貫してやればいいと思います。小学生が中学生に上がる時の不安も取り除ける。小学校と中学校の先生も交流ができることで、むしろ高い教育ができるかと思えますし、3校の校舎が一つに集約できるというのも、経済的にもいろんな意味でもいいなと思いました。自分の調べたところと皆さんの意見を総合するとこんなところかなと思って話させてもらいました。

(委員)

そう、この学校の懇談会というのは今までで3回やられていますけど、ここの会館で行ったのは11月だったと思うんですけど、重大なこういう大きな動きのことなので、もうちょっと早く説明会とかができなかったのかなと思っています。これが大きい統合ということになると、早く進めていかなければならないと思う。

(委員)

資料4にある学校再編によって得られる効果ということで、人数のところは黄色と濃い黄色に色分けされています。それ以降からぐんと人数が減ってくるようになります。私がここで言いたいのは、こどもの立場で考えれば、友達が多い方がいいと。ただ、大きく環境が変わりすぎるほどのことでやってしまうと、こどもも大変、親も大変、まず、手が届く範囲で統合されて、当然、少しでもやっぱり多くいた方が、今のこの環境の中でいったら、この西富士中学校区ということの中の統合を申し訳ないけど、早く進めていただいて、友達同士がやっぱり大勢いた方が、こどもたちにとっては楽しい思い出とか、それからまたいろいろな部分でやはりお互いに成長できるきっかけというのがあるんじゃないのかなと思います。ここを過ぎてしまうと、統合が遅くなってしまうと、やはりこどもの機会というものを失ってしまう方が多いんじゃないのかなと。そこを考

れば、この部分を一つのハードルとして、やはり今進めていくということが大事じゃないのかなと、このデータから見てそうお考えになったらどうかなというようなことが私の意見です。

(委員)

まず、最初の方に会長からもあったように、西富士中学校というのは、上井出、白糸、人穴から西富士中になるから、西富士中学校にということはいいことかなと思います。それに対して、通学の支援とか放課後児童クラブとか、そういうのがすごくしっかりしてくれれば、支援して、皆さんも預けられるかなと思います。

(委員)

前提として統合するということでもいいのでしょうか。それはもう決定で、再編するというに嫌だと言ったらそれはどうなんですか。それを先に聞いておきたい。

(教育長)

基本はもう再編、統合に向けてこの協議会を立ち上げているので、その方向性でお願いしたいと思います。

(委員)

将来的に中学校も統合する可能性はありますか。西富士中が例えば、5年後、10年後にまた北山中とか他の中学校と統合される可能性はありますか。つまり、西富士中がなくなってしまう可能性はあるのでしょうか。例えば、小学校は小学校で、ここで一緒になったとして、要はこの地域から小学校が残ったとしても、中学校がなくなってしまう可能性というのもあるのかなと思ひまして、今回は小学校の話ですけども、いずれ中学校も人数はさらに減って行って、中学校もどこかと合併させましようみたいな話が、例えば5年後10年後にまた出てくる可能性があるのかなと。

(教育部長)

すいません、今、先の話はちょっとできませんが、今考えているのは、やはり西富士地区の小学校が残って、その子たちが行く中学校が例えば、北山中に行くというような考え方を持っておりません。ですので、もし西富士中が、将来子どもが減ってきて、北山中と一緒になるということであれば、一緒に小学校と中学校セットというふうを考えておりますので、学区に小学校だけ残って、西富士中だけがなくなるというのは今のところ考えておりません。

(委員)

例えば、白糸小と上井出小がどちらかに集約される場合と、西富士小中学校という形になった場合で、地元に残る可能性としてどちらの方が可能性が高いのでしょうか。

(教育長)

言っていることはわかりますが、今どっちの方が可能性が高いですよということは、我々がこの時点でこっちですよということはちょっと言えないというのがお答えになるかなと思います。

(委員)

例えば、この協議会で西富士小中学校がいいですよという結論になったとして、それ

を教育委員会の方に言ったらそうなるんですか。

(教育長)

要望ということでの意見書をいただきますので、できるだけその形に沿うようにこちらは、完璧に出されたらもう 100%絶対ということはありませんけど、それに沿うような形でこちらが努力していくということです。

(委員)

この表に中学校が入ってないので、中学校の人数が何人になるかというのをあわせて見せていただきたいと思います。それから、表だと令和 13 年だけど、今生まれたこどもの推計から、まだこれから生まれてくる部分がわからないからということで、5年後までだと思えるんですけども、いわゆる出産年齢の女性の数というのは、もうあるので、そこから、今の出生率から考えると推計できると思うんですね。あわせて見せてもらうことはできませんか。

(教育総務課長)

それは難しいですね。

(教育部長)

いたずらに変な数字になってしまうと、それを根拠でお話になられても困りますのでやはり今見えている数字でお示しさせていただければと思います。中学校の数はお示します。

(会長)

この地域に生まれ育った人間で西富士中学校に対して距離が遠いのかどうか、あまり違和感を覚えている人は少ないんだろうと思います。私もそうですから。狩宿の一番下の方なので、一番遠いところなんです。上野中も大差ないです。北山中も広い道を通れば大差なく行ける距離ではあるんですが、やっぱり地元、西富士中学校に行くと、同級生も多いですし、そういう思いもあって、西富士小中学校という形で、一旦進めていくのであれば、皆さん多分ここでお子さんを中学生まで育てる方であれば理解がしやすいかなと。これで上井出に行きましょうとか白糸に行きましょうとなると、今まであった小学校が今後はここなんだってとなるとちょっと違和感を覚える可能性はあるのかなと思います。ただ先ほどからありますが、5年たったら 60 人しか小学生がいないよとなったときに、そこから 5 年先いったら、またどこかと統合の話が出てきちゃうのかなと。一貫校であればそれが避けられるということであれば、小学生の年齢の子たちが少なくなっちゃうと、やっぱりそっちを考えた方がいいんだろうと思うんです。中学校も何かしらそのころには考えなければならぬ話だと思います。したがって、一遍に大きくすると合併する期間、話し合い期間が長くなるので、そうすると子どもたちに不利益が増えちゃうのかなと思うと、すごく悩みます。できるだけ早い段階で、委員からもお話ありましたけど、子どもたちに元気があるうちに場所を作っていくのが、この地域の子どもたちにとっては一番いいことなんじゃないかなと思っています。

内房でも協議会はやっていますよね。この協議会でそういったところの話なんかも、興味深く聞かせていただければ嬉しいし、街中の学校でも子どもが少なくなって減少し

ている小学校がいくつかあるように、聞いております。そういう学校はこういう話が出てきていくのか、まだそこまで生徒が減りきっていないので、まだしばらくそこは、そのまましておくという考え方なのか、そこら辺もちょっと聞いてみたいと思います。これはもう、北部地域とか芝川地域とかという話ではなくなっているのかなど。こういう話は保護者の方と、そういう方々、これからの小学生を抱える親御さんにとっては、非常に重要な話だと思うので、ぜひそういう話も皆さんにお聞かせいただきたい。

8時30分になりましたが、皆さんよろしいでしょうか。

(委員)

先ほどもありましたけど、本当にスピード感をもってやらないとまずいと思います。こんな状態まで放置してしまった大人の責任はすごく大きいと思います。できることであればもう来年度、令和8年度からもう始めたいところの気持ちはあると思います。もう本当に1年間で話を決めて、令和9年度からはもう統合するぐらいのつもりで、できない理由を考えたら本当にいくらでも出てくると思うんですけど、そうではなくて、できる理由を考えていただいて、皆で協力して、意見を取りまとめていきたいですね。

(会長)

司会の方よりお話がありましたが、この会合の詳細をまとめていただいてということなので、地区代表の方がいらっしゃいますので、各地域に戻っていただいて、資料が出てきた時点で、各区でお話をしていただいて、PTAの方もそうですが、集まりがありましたらお話をしていただいて、周りの方に聞いて、次の会議のときにいろいろな意見をまた持ち寄っていただいて、スピード感を持って次に進んでいけるような会合にしていければと思います。今日の会議は終了したいなと思いますので、進行を事務局にお返しします。

6 次回の予定

第2回の日程を5月下旬以降とし、後日調整することとした。また、時間帯は午後7時、場所は白糸会館とすることに決定した。

7 閉会

(副会長)

皆様、本日は長時間にわたり議論いただきありがとうございました。今日の会議で小学校を統合するということを、皆さん再度ちゃんとここに賛同していただいた方が確認できました。今後、場所をどこにするかとか、短期的なスピード感を持った動きという話の問題があると思いますけれども、まずはこどもたちの未来を考えるということで、こどもたち目線でこどもたちが困らないような形で短期的なところがあっていければということで、本日はお疲れ様でした。